

市来・串木野方言の談話資料*

黒木 邦彦
(神戸松蔭女子学院大学)

加藤 幹治
(東京外国語大学大学院/日本学術振興会)

A Conversational Text of the Ichiki and Kushikino dialect of Japanese

KUROKI, Kunihiko
Kobe Shoin Women's University

KATO, Kanji
Graduate School, Tokyo University of Foreign Studies / JSPS

This paper provides a conversational text of the Ichiki and Kushikino dialect of Japanese. Phonemic transcriptions, morphological analyses, glosses and translations are provided. The morphological analyses and glosses are automatically generated by ELAN.

キーワード:

Keywords:

1. 概要
2. 音韻論
3. 形態論
4. テキスト

1. 概要

1.1. 資料

本稿は、二人の話者による対話の談話資料を提示する。話者は M12（男性。1930 年代生まれ。串木野市冠嶽地区の生まれ育ち）と F13（女性。1940 年代生まれ。市来町の生まれ育ち）である。子供の頃の遊びを話題として設定し、その後は自由に会話を始めていただいた。話題はおおよそ 10 代までの事柄である。

1.2. 表記

基本的な記号・略号は巻末に示したが、紙幅の都合上全てを掲載することができないため、以下のウェブページも参照されたい：<https://docs.google.com/spreadsheets/d/>

* <脚注内容>

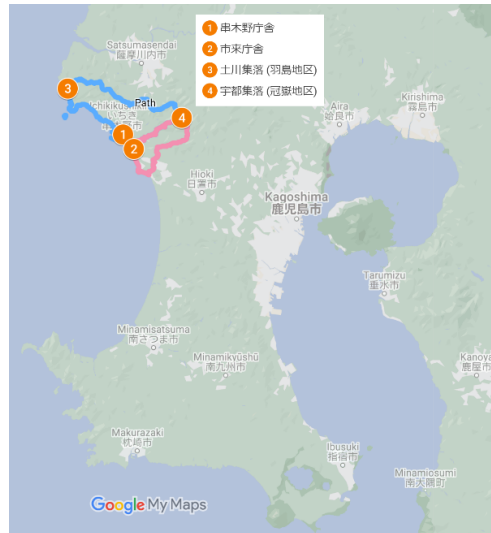


図1 いちき串木野市 (22/06/27 時点)(Google My Maps)

1fAE2sToqkYIEWKQmOyV1ILIF5yNDSv60LpYJk5NvQk/edit#gid=1073523111

1.3. 地理

本稿に言う市来・串木野方言 (以下「串木野方言」) とは、鹿児島県いちき串木野市の市域で生まれ育った (正確には、言語臨界期を過ぎた) 老年層の方言を指す。鹿児島県中西部に位置する同市は、市来町 (図1: 桃線) と串木野市 (図1: 青線) とが2005年10月11日に合併したこと (「平成の大合併」の一事例) により発足した自治体である。

1.4. 系統

次掲表1は、串木野方言の特徴を選抜したものである。表1のとおり、同方言の特徴は近隣方言にも共有されており、特有のものは恐らく少ない。

串木野方言と特徴を共有する近隣方言を鑑みるに、串木野方言は鹿児島県北西部方言の典型と言える。科学的に調べたわけではないが、近隣方言との相互理解度も低くない。

五十嵐 (2018) が提案する日琉諸語の系統分類に従えば、串木野方言は「日本語族 - 南日本語派 - 南部九州・琉球語群 - 薩摩語 - 串木野方言」と成ろう。

1.5. 方言差

いちき串木野市は112.30km²の面積を持ち、72 (市来町に8、串木野市に64) の町字から成る (<https://geoshape.ex.nii.ac.jp/ka/resource/46219.html>)。集落間の最大距離は、串木野市に属していた羽島地区の土川集落 (図: 3) と冠嶽地区の宇都集落 (図: 4) との

表 1 串木野方言の特徴を共有する近隣方言

	意味	親方言	串木野方言	串木野方言の特徴を共有する近隣方言
音調体系	-	-	1/2 型語声調	九州西部・南部
ai に対応する [e]	‘貝’ ‘按配’	kai ambai	[ke] [embe]	鹿児島県
形態素境界 <i>ri, ru</i> に対応する [i]	‘鳥’ ‘取るよ’	tori toru=ga	[toi] [toige]	天草下島南部、鹿児島県
濁音に逆行同化する漢語形態素末 <i>t, k</i>	‘鉄道’ ‘国語’	tet-do: kok-go	[ted`do] [kog`go]	九州西部・南部
動詞接尾辞 <i>a-u</i> ‘IRR’	‘書こう’ ‘上げよう’ ‘爲よう’	kak;a-u age-u se-u	[kəko] [agu] [su]	西部・南部
動詞接尾辞 <i>a-n-0=nara</i> ‘OBL’	‘書かねば’ ‘上げねば’ ‘爲ねば’	kak;a-n=nara age-n=nara se-n=nara	[kəkennere] [egennere] [se:nnere]	鹿児島県
主格標示	‘壺が (割れた)’	tubo=no	[fsubono]	九州西部・南部
対格標示	‘壺を (割った)’	tubo=wo	[fsubo(o)]	鹿児島県北西部
その他	‘私 (達) の家’	n:do=ga#i	[ndoge]	鹿児島県北西部
	‘刺し身’	buen	[bueŋ]	九州西部・南部
	‘晩酌’	darejame	[deijeme]	天草下島、鹿児島県
	‘ほら’	hara	[here]	天草下島南部、鹿児島県

あいだ、25km 弱 (車で 40 分未満、徒歩で 5 時間強の距離) である。移動に苦勞する山間集落は少なくないが、山川海などに隔絶された集落は無い。

筆者が談話収録時等に観察した限り、串木野方言の母語話者同士は、出身地や性別を違えていても、滞り無く会話している。方言の違いが有るとすれば、性別や職業 (= 漁業や農業に明るいか否か) に因るところが大きいと思われる。地域に因る差異としては、次掲 (1) が羽島地区の方言に認められる。

(1) 羽島方言に見られる言語的特徴

- 動詞末尾の /r/ を [i] で実現させる。E.g., /or-0/ [oi] ‘居る’; 串木野一般は [oʔ]
- /t, d/ を硬口蓋化 (・破擦/摩擦音化) させる。E.g., /kow-te/ [kofʃe] ‘買って’, /soko=de/ [sokoʃe] ‘其処で’
- 主格尊敬を動詞接尾辞 /i-jar-/ で示すことを好まない。E.g., /se;r-ar-ta/ [s(ɰ)erette], ?/si-jar-ta/ [sijette] ‘為さった’

1.6. 話者数

2022 年 5 月 31 日時点におけるいちき串木野市の総人口は 26,595、串木野方言を日常的に使うと考えられる 70 歳以上人口 (比率) は 8,041 (30.24%) である (旧市来町域は 1,769 / 5,858 (30.20%)、旧串木野市域は 6,272 / 20,737 (30.25%)。 <https://www.city.ichikikushikino.lg.jp/shimin1/shise/toke/documents/20220531.pdf>)。2017 年 4 月 30 日時点に比べると、総人口は減っているが、70 歳以上人口 (比率) は寧ろ増えている。

2. 音韻論

2.1. 音素目録

2.1.1. 母音音素

現代日本語一般 (以下「現代語」) に同じく、串木野方言も次掲 (2) のように母音音素 5 種を弁別する。/i, u, e, o, a/ それぞれの音色的特徴も現代語のそれにほぼ等しい (/u/ の音色は [u] に近いが、入力 of 便宜から [u] と表記)。

表 2 串木野方言の母音

			lab						
			plt						
				-	-			+	
				+	-			-	
op	lc			非円唇 前舌	非円唇 後舌			非円唇 前舌	
-	+	狭		/i/ [i]		/u/			[u]
-	-	中		/e/ [e]		/o/			[o]
+	-	広			/a/ [a]				

/i/: 基底の音素表記 [i]; 表層の IPA 表記 lab: labial (両唇) lc: lateral constriction (側面狭窄) op: open (開口) plt: palatal (硬口蓋)

(2) 母音音素の最小対

- a. /ki/ [kʲi] ‘木’
- b. /ku/ [ku] ‘区’
- c. /ke/ [ke] ‘貝’
- d. /ko/ [ko] ‘粉’
- e. /ka/ [kə] ‘課’

実際のところ、各母音音素の音色は、音韻的条件 (= 隣接する音素) に左右されるので、表 reftab:2 のように一定ではない。たとえば、非円唇前舌狭母音音素 /i/ に続く非円唇後舌広母音音素 /a/ の始まりにおいては、舌背が、[e] を発する時より前寄りかつ上寄り ([i] と [e] とのあいだ、[e] 辺り) に有り、次第に [e] の位置に収まっていく。このような /a/ の音色は /e/ のそれに幾分近付く。ただし、当該母音音素の音韻的条件を考慮すれば、母音音素 5 種の音色が重なることは無い。

2.1.2. 子音音素

表3のとおり、串木野方言の子音音素もそれぞれの音色的特徴も、現代語のそれにほぼ一致する。顕著な違いは、調音部位・調音法が指定されていない /Q/ を閉鎖音類に設ける点のみである。

表3 串木野方言の子音音素

lc	cnt	son	vcd	grv lab	+	-	+	+
					両唇	歯茎	軟口蓋	不定
+	+	-	-	閉鎖: 無声	/p/ [p]	/t/ [t̚ ~ t]	/k/ [k]	
+	+	-	+	閉鎖: 有声	/b/ [b]	/d/ [d]	/g/ [g]	
+	+	+	+	閉鎖: 鼻腔	/m/ [m]	/n/ [n]		
+	+	+	○	閉鎖: 不定				/Q/ [N ~ ʔ(C)]
+	-	-	-	摩擦: 無声		/s/ [s ~ s ^(j)]/ç		/h/ [ɸ ~ ç ~ h]
+	-	-	+	摩擦: 有声		/z/ [d̪z ~ z]		
-	+	+	+	共鳴		/r/ [r]		

母音音素の音色に同じく、子音音素のそれも表3のように一定ではない。とりわけ、/t, Q, s, z, h/ においては音色の違いが目立つ。次掲(3)のとおり、その違いは音韻的条件に因るものである。

(3) /t, Q, s, z, h/ の条件異音

A. /t/	B. /Q/	Γ. /s/	Δ. /z/	E. /h/
a. /t̚/ / _[+lc] [N]	/ _N	[s ^(j)]/ç	/ _.	[d̪z] / C. _[+lc] [ɸ]
b. /t/ / elsewhere [ʔ(C)]	/ elsw	[s]	/ elsw	[z] / elsw [ç] / _i
c.				[h] / elsw

∴ 音節境界 _: 当該音素の位置

たとえば、(3Aa) は、側面狭窄音類に先行する /t/ が [t̚] で実現することを意味する。

表3には記さなかったが、非円唇前舌狭母音音素 /i/ に先行する子音音素は、前掲(2a)のとおり常に硬口蓋化する。この硬口蓋化は、(3Aa) /t/ においては破擦化と共に起こる。よって、/i/ に先行する /t/ は次掲(4A)のように [t̚ʲ] で実現するのである。

(4) 歯茎阻害音類の硬口蓋化

A. /ti/	B a. /kaw-te/	B b. /soko=de/	Γa. /seb/	Γb. /zenzen/
[t̚ʲi:]	[koʔʲe]	[sokoʔʲe]	[s̚eʔʲ]	[dz̚endz̚eŋʲ]
‘血’	‘買って’	‘其処で’	‘蟬’	‘全然’

(4 B-Γ) のとおり、/e/ に先行する歯茎阻害音類 /t, d, s, z/ も、常にではないが、硬口蓋化する。/t, d/ の硬口蓋化は羽島地区の話者に目立ち、(4 B) 閉鎖の緩み (= 中線の接触の減少/消失) に因る破擦/摩擦音化も伴う。

2.2. 音節構造

串木野方言の音節構造は図2のとおり。/u/, /i/ が介音に立つ場合は、音節境界把握の便から /w/, /j/ に書き換える。/w/, /j/ という子音音素を立てる分けではない。

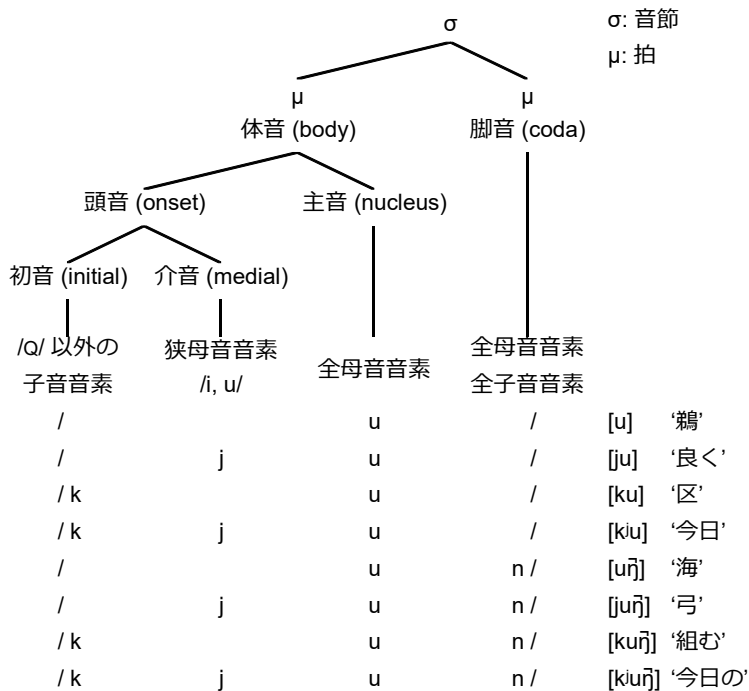


図2 串木野方言の音節構造

2.3. 単一調音部位子音と二重調音部位子音との対立

串木野方言においても現代語に同じく、単一調音部位子音 [C] と、それを硬口蓋化させた二重調音部位子音 [Cʲ] とが次掲 (8Aa–b) のように対立する。この対立は、介音の有無に基づく /C/ :: /Cʲ/ と解釈すれば、硬口蓋化子音類を乱立させずに済む。

(5) 単一調音部位子音と二重調音部位子音との対立

A. B.

- a. [kɐŋʲ] kɛan ‘髪’ [ku.tɐ] ku.ta ‘食った’
 b. [kʲɐŋʲ] kjan ‘来なさい’ [ku.ʃʲɐ] ku.tja ‘口は’
 c. [kʷɐŋʲ] kwan ‘食わん’ [ku.ʃɐ] ku.twa ‘靴は’

高齢 (≡ 戦前生まれ) の話者においては、軟口蓋閉鎖音 [k], [g] を両唇化させた [kʷ], [gʷ] も (8Aa–c) のように弁別的である。[kʷ], [gʷ] の弁別性も介音に求めて、それぞれ /kw/, /gw/ と解釈する。

(8A) のように解釈できる 3 項対立としては、一部の話者に見られる歯茎阻害音の 3 項対立 [t] :: [ʃʲ] :: [ʃ] も挙げられる。/ti/ が [ʃʲi] で、/tu/ が [ʃsu] で実現することを踏まえて (§ 1.2 参照)、この 3 項対立は (8 B) /t/ :: /tʲ/ :: /tw/ と解釈する。

2.4. 中和

2.4.1. 閉鎖音類の中和

次掲 (9A) のとおり、阻害音類 /p, b, t, d, k, g/ は音節頭において対立する (最小対 (9A) に /p/ の例は無いが、[pɛŋ] ‘パン’ :: [bɛŋ] ‘晩’ :: [kɛŋ] ‘缶’ :: [gɛŋ] ‘願’ のような最小対から /p/ は設定しうる)。

(6) 阻害音類の最小対

	A. TOP	B. NOM	Γ. 0
a. 株	/kab=ja/ [kɛ.bʲɛ]	/kab=ga/ [kɛgʲ.gɛ]	/kab/ [kɛʔ]
b. 勝ち	/kat=ja/ [kɛ.ʃʲɛ]	/kat=ga/ [kɛgʲ.gɛ]	/kat/ [kɛʔ]
c. 舵	/kad=ja/ [kɛ.zʲɛ]	/kad=ga/ [kɛgʲ.gɛ]	/kad/ [kɛʔ]
d. 書き	/kak=ja/ [kɛ.kʲɛ]	/kak=ga/ [kɛgʲ.gɛ]	/kak/ [kɛʔ]
e. 鍵	/kag=ja/ [kɛ.gʲɛ]	/kag=ga/ [kɛgʲ.gɛ]	/kag/ [kɛʔ]

しかし、阻害音類の対立は音節末においては失われる。(9 B) 阻害音類が続く場合はそれに逆行同化し、(9Γ) そのほかの場合は /Q/ に合流する。

2.4.2. 歯茎阻害音類の中和

次掲 (10Aa-b) のとおり、歯茎摩擦音類 /s, z/ は音節頭において対立する。しかし、(10 B a-b, Γa-b) 音節末においては両者の対立が失われ、/s/ に合流する。

(7) 歯茎阻害音類の最小対

	A. TOP	B. NOM	Γ. 0
a. 滓	/kas=ja/ [kɛ.sʲɛ]	/kas=ga/ [kɛç.gɛ]	/kas/ [kɛç]
b. 数	/kwaz=ja/ [kɛ.zʲɛ]	/kaz=ga/ [kɛç.gɛ]	/kaz/ [kɛç]
c. 舵	/kad=ja/ [kɛ.zʲɛ]	/kad=ga/ [kɛgʲ.gɛ]	/kad/ [kɛʔ]

それとは逆に、(10 B b-c, Γb-c) 有声歯茎阻害音類 /z, d/ は音節末においてこそ対立する。(10Ab-c) 音節頭においては対立せず、/z/ に合流する。

2.5. 音素対応

参考までに、語形成にも関わる規則的音素対応を表 4 に示しておく。

表 4 規則的音素対応

	A.	B.	Γ.	Δ.	E.	Z.
一般	ai, api, awi	ou, au	mi, mu	n	r	ri, ru
串木野	e	u	n	m	t	i
条件	anywhere	anyw	..		si_[-lc, -plt]	..
a.	kapi	it-sjou	sirami=ni	ke-sin;a-de	usiro	tori
	ke	iss(j)u	sitanni	kesimazi	usito	toi
	‘貝’	‘一升’	‘虱に’	‘死なず’	‘後ろ’	‘鳥’
b.	taigai	it-sau	gamu=ni		sir;a-n-0	saru
	tege	is-s(j)u	ganni		sitan	sai
	‘大概’	‘一艘’	‘ガムに’		‘知らん’	‘猿’

2.6. 語声調

串木野方言は、東京式や京阪式とは異なる音調体系を持っている。この音調体系は語 (word) (国文法に言う文節) のピッチ型を、少数用意した声調型のいづれかに嵌め込むのである。このような音調体系はその処理単位から語声調 (word-tone) と呼ばれる (早田, 1999 参照)。

串木野方言は、体言/用言の別を問わず、声調型をふたつしか用意していない。(i) ひとつは、語末 2 音節を HL (= 相対的高低) のように実現させる下降調である。末尾音節が重音節であれば、当該重音節を HL で実現させることも有る (e.g., se⁺n ‘為ん’, ku.sa⁺i ‘鎖’; 「⁺」はピッチの上昇/下降)。(ii) もうひとつは、LH のように実現させる非下降調である。

伝統的に (i) は A 型、(ii) は B 型と呼ばれる。ただし、語声調を語形の一部として示す場合は、ローマ字で記す音素と紛れぬよう、A 型を「1」、B 型を「2」とする。声調型 (1/2) は各形態素に登録されており、語の声調型は、その第 1 構成要素の声調型に一致する。このことを (表 4Γ) から確認されたい。

表 5 名詞のピッチ型

	A. /toi1/ ‘鳥’	B1. /in2/ ‘犬’	B2. /hada2/ ‘肌’	Γ. /toi1+hada2/ ‘鳥肌’
a. 0	to ⁺ i	in	ha.da	toi.ha ⁺ .da
b. /-tati/ ‘APL’	toi ⁺ .ta?	in ⁺ .ta?	-	-
c. /=ga/ ‘NOM’	toi ⁺ .ga	ij ⁺ .ga	ha.da.ga	toi.ha.da ⁺ .ga
d. /=bakkai/ ‘ばかり’	toi.bak ⁺ .kai	im ⁺ .bak ⁺ .kai	ha.da.bak ⁺ .kai	toi.ha.da.bak ⁺ .kai

3. 形態論

串木野方言は日本語全般に同じく複統合型 (polysynthetic) 言語であり、接尾辞的要素で語 (word) の意味を加工する (宮岡, 2002 参照)。この特徴は名詞や動詞に顕著である。

3.1. 名詞

名詞を構成する接尾要素を、名詞語根の近くに現れるものから順に表 6 に並べる。

/=Wo/ ‘ACC’, /=Wa/ ‘TOP’ の /W/ のように、大文字で記された音素は、音韻的/形態的条件に基づいて変異するものである。/W/ に関して言えば、/w ~ j/ を意味する。

3.2. 動詞

動詞を構成する接尾要素を、動詞語根の近くに現れるものから順に表 7 に並べる。黄色の行には、語形成を終える屈折接尾辞などが並んでいる。

/^s-as-/ ‘CAUS’, /^r-ar^E-/ ‘SPON’ の /^s,^r,^E/ のように、上付き 1/4 で記された音素は、音韻的/形態的条件に基づいて出沒するものである。

表 6 名詞を構成する接尾要素

待遇	-saa, -san, -do(n) ‘HON’; -bo ‘DIM (< 坊)’; -goro ‘PJR (< 吾郎)’
複数	-tat ‘APL’, -ra ‘APL:INFRR’, -do(m(o)) ‘APL:INFRR’
限定	=bakkai ‘ばかり’, =dake ‘だけ’
格 1	=kara ‘ABL’; =zui, =gii, =made ‘TERM’
格 2	=to ‘CONJ’
格 3	=ni ‘DAT’; =de ‘INST’
程度	=joka ‘CMPR’; =saka ‘さえ’; =sika ‘しか’
格 4	=ga ‘NOM’; =no ‘GEN’; =Wo ‘ACC’
主題	=Wa ‘TOP’; =mo ‘ADD’

表 7 動詞を構成する接尾要素

態	^s -as- / ^s -asE- ‘CAUS’
抱合	NP+ ‘IPFV’
態	^r -ar- / ^r -arE- ‘SPON’
屈折 1	-nagara ‘SIM’; -ke ‘PURP’
相	-tjor- ‘CONT’; -tjos- ‘CONT:NHON’; -tjar- ‘RSL’; -tjok- ‘PRF’
可能	+kir-, =ga#@nar- ‘POT’; (=wa)#@e-n- ‘POT:NEG’; +das;a-n- ‘CPOT:NEG’
相	-wor- ‘IPFV’
複合	+kata ‘IPFV’
待遇	-jarE-, ^r -ar-, ^r -arE- ‘NHON’
重複	~VSTM ‘SIM’
待遇	-moS- ‘POL’; -ja ⁿ sE-, ^r -asE- ‘NHON:POL’
屈折 2	^r -e ‘IMP:CCL’; ^r -na ‘PROH:CCL’
極性	^a -n- ‘NEG’
屈折 3	-te ‘SIM’; ^a -(n)zi / ^a -ide ‘NEG:SIM’
動詞化	-kar-, -djar- ‘VLZ’
時制	-taR- ‘PST’
屈折 4	^r -eba / ^r -ja, ^r -to ‘COND’; -temo ‘ACOND’; ^a -nti(a) ‘NEG:ACOND’ ^r -0 ‘ATTR’; ^a -u ‘IRR:ATTR’

3.3. 形容詞

形容詞を構成する接尾要素は極めて少なく、表 8 のみっつしか無い。動詞に比べると、屈折が限られているので、/-kaR-/ を介して、動詞に準じた語形を取るのである。

表 8 形容詞を構成する接尾要素

動詞化	-kaR- ‘VLZ’
屈折	-u ~ -ko ‘ADVL’, -u#si-te ‘SIM’

4. テキスト

- (3) F13:
- ozjisaw~wa nai sijjotta ??*

odisaN=wa nani se-iwor-ta ?

中中年男性=TOP WH: 物 為る-IPFV-PST:ATTR ??

‘小父さん-wa:ag 何-0:ev してた?’

(00:45.730 – 00:46.970)

- (4) F13:
- nai sjite asondeta ??*

nani se-te asob-te-ta ?

WH: 物 為る-SIM 遊ぶ-CONT-PST:ATTR ??

‘何-0:ev して [貴方-agsb] 遊んでた?’

(00:48.429 – 00:49.435)

- (5) F13:
- otokon@sja@na:*

otoko=no=@sju=wa=@na Leng

男=GEN=@衆=TOP=@UPD Leng

‘男の 衆-wa:??-なあ’

(00:50.537 – 00:51.259)

- (6) M12:
- ataita hoite kammetake@jadde@na: kotobaga araka@to ||*

atasi-tati=wa sosite kammuridake=@djar-ru=de=@na Leng kotoba=ga

1st:POL-APL=TOP そして 冠岳=@COP-ATTR=CSL=@UPD Leng 言葉=NOM

ara-ka=@to ||

粗い-ATTR=@NML ||

‘私たち-wa:thsb そして 冠岳だからなあ 言葉-ga:thsb 荒いの。’

(00:53.202 – 00:56.108)

- (7) F13: *kawa it... kawade: asondari@na:*

kawa ik- ... kawa=de asob-tari=@na Leng

川 行く ... 川=INST 遊ぶ-ILL=@UPD Leng

‘川-0:gl 行っ... [わたし-agsb] 川で 遊んだりな’

(00:57.282 – 00:59.750)

- (8) F13: *ganeo tottai sjijotta@jo@ne: ??*

gane=wo tor-tari se-iwor-ta=@jo=@ne Leng ?

蟹=ACC 取る-ILL 為る-IPFV-PST:ATTR=@INFM=@UPD:INFM Leng ??

‘[わたしたち-ag] 蟹-wo:th 取ったり してたよね。’

(01:01.803 – 01:03.742)

- (9) F13: *ippjikjisjika tora jezji@o www*

iti piki=sika tor-=wa e-anzi=@wo www

1 匹=しか 取る=TOP 得る-NEG=@INFM (笑)

‘[わたし-ag][其の蟹-th] 1 匹しか 取れなくてさ’

(01:06.692 – 01:08.274)

- (10) M12: *ogehoge*

www

(笑)

‘www’

(01:08.312 – 01:09.583)

- (11) F13: *okkji@na nabe sjojuo irete gararete@ne www*

*OOki=@na *** sjOOju=wo ire-te*

大きい=@COP:ATTR 鍋 醤油=ACC 入れる-SIM

gar-rare-te=@ne www \$\$

叱る-SPON-SIM=@UPD:INFM (笑) \$\$

‘大きな 鍋-ni:gl 醤油-wo:th 入れて [わたし-thsb] 怒られてね’

(01:09.710 – 01:11.828)

- (12) F13:
- joka omoidega aru@ne || uN*

jo-ka omow-i- de-=ga ar-ru=@ne uN
 良い-ATTR 思う-Thm 出る=NOM 有る-ATTR=@UPD:INFM ^諾
 ‘,’

(01:13.762 – 01:16.240)

- (13) M12:
- soino kora: sjidanandatsjatta ||*

sjOOju=no koto=wa (sidanantjatta)

醤油=GEN 事=TOP–

‘[わたし-exp] 醤油の 事-wa:?? 知らなかったって 有った。’

(01:16.240 – 01:18.488)

- (14) F13: ***

sorede

それで

‘それで’

(01:17.726 – 01:19.022)

- (15) F13:
- taberarensji@ne ho... sono mamma iretemo www*

tabe-rare-an-ru=si=@ne || ho... ((sono

食べる-SPON-NEG-ATTR=CSL=@UPD:INFM ||– ((MED:GEN 儘

mama ire-te=mo) www

入れる-SIM=ADD)) (笑)

‘不特定-ag[其の蟹-th] 食べられんしね、 不特定-ag[其の蟹-th][其の鍋-gl]
 其の まま 入れても、’

(01:19.338 – 01:22.055)

- (16) M12:
- ato p\umoton@sjiga@na: ano goCno@sjuga kotobawa joka@jo ||*

ato humoto=no=@sju=ga=@na Leng ano goos=no=@sju=ga

後/跡 麓=GEN=@衆=NOM=@UPD Leng PROX:GEN 郷土=GEN=@衆=NOM

kotoba=wa jo-ka=@jo ||

言葉=TOP 良い-ATTR=@INFM ||

‘あと 麓の 衆-ga:??-な 彼の 郷土の 衆の 言葉-wa:thsb 良いよ。’

(01:31.062 – 01:35.404)

- (17) M12: *ossanta?dno kotobawana ottokon tsjoCn narotta koto iwarrijo:@moN ??*
*okusaN-tati=no kotoba=wa=@na Leng or-ru tokoro=no ***=ni*
 奥さん-APL=GEN 言葉=TOP=@UPD Leng 居る-ATTR 所=GEN ***=DAT
 172 *naraw-ta koto juw-rare- Gmn-au=moN ?*
 習う/倣う-PST:ATTR 事 言う-SPON Gmn-IRR:ATTR=INFM ??
 ‘奥さんたち i の 言葉-wa:??-な i-ag 居る とこの ***に 習った こ
 と-wo:th i-ag 言われるだろ?’
 (01:35.496 – 01:41:000)

- (18) F13: *otokon@sjiwa dokomo so:@jo@ne: ??*
otoko=no=@sju=wa doko=mo sOO=@jo=@ne Leng ?
 173 男=GEN=@衆=TOP WH: 空間=ADD MED:ADVL=@INFM=@UPD:INFM Leng ??
 ‘男の 衆-wa:thsb 何処も 其うよね。’
 (01:41.515 – 01:44.605)

- (19) M12: *u:N*

 174 ***
 ‘うん’
 (01:43.992 – 01:45.654)

- (20) M12: *mo: ataira: mukkatanandomo borokuso iwarareottadoN*
mAA atasi-ra=wa ukkata=nado=mo boro\$ kuso
 ?処理中 1st:POL-APL=TOP 妻=ILL=ADD 崩壊\$ 糞
 175 *juw-rare-iwor-ta=@do ||*
 言う-SPON-IPFV-PST:ATTR=@INFM ||
 ‘まあ 私ら-wa:thsb 奥さんなど-mo:ag ボロクソ-0:st 言われてたぞ。’
 (01:46:000 – 01:50:000)

- (21) F13: *mo soCko hora na: naideN kaideN ieru tosjinji nattat@tsju: ko?j@jara@seN ??*

moo sore=siko hora nAA nani=demo kare=demo
 もう MED: 物=分だけ 注意喚起 ^同意(要求) WH: 物=ILL DIST: 人=ILL

juw-re-ru tosi=ni nar-ta=@tjuw-ru
 言う-POT-ATTR 年=DAT 成る-PST:ATTR=@QUOT: 言う-ATTR

koto=@djar-a=@seN ?

事=@COP-NEG:CNFM ??

‘もう 其れだけ ほら [夫婦-ag:sp][其の配偶者-gl:sp][文句など-th:sp]
 何でも 此んでも 言える 歳に [わたしたち-thsb] 成ったと いう
 ことじゃない?’

(01:52.557 – 01:57.324)

- (22) M12: *mukasja tega de@otta@de@o*

mukasi=wa te=ga de-iwor-ta=de=@wo

昔=TOP 手=NOM 出る-IPFV-PST:ATTR=INST=@INFM

‘昔-wa:time 手-ga:thsb 出てたからよ。。’

(01:59.709 – 02:02.078)

- (23) F13: *mukasja: ien@katta koto: ju:de@ja@na: || u:N*

mukasi=wa juw-re-an-kar-ta koto=wo

昔=TOP 言う-POT-NEG-VLZ-PST:ATTR 事=ACC

juw-ru=de=@dja=@na Leng || UUN

言う-ATTR=INST=@COP:CCL=@UPD Leng || ?処理中

‘昔-wa:time [妻-ag:pt][其の夫-gl:pt] 言えなかった こと-wo:th [妻-ag]
 言うからだな。 う～ん’

(02:03.445 – 02:06.249)

- (24) M12: *omansa: doko@na ??*

omaje-sa.a=wa doko=@na. ?

1st:POL-BTF=TOP WH: 空間=@Q ??

‘貴方-wa:thsb 何処(の出身)?’

(02:16:000 – 02:16.856)

(25) F13: *atasjiwa@ne: itsjikjino ekjima@desu* ||

atasi=wa=@ne *Leng itiki=no eki maje=@des-ru* ||

180

1st:POL=TOP=@UPD:INFM *Leng* 市来=GEN 駅 前=@COP:POL-ATTR ||

‘わたし-wa:thsb-ね 市来の 駅前です。’

(02:16.923 – 02:19.217)

(26) F13: *hai*

hai

181

^諾

‘はい’

(02:19.267 – 02:21.289)

(27) M12: *a: i:tsji?dno ekjima@na ??*

AA itiki=no eki maje=@na. ?

182

?処理中 市来=GEN 駅 前=@Q ??

‘ああ [貴方の出身-thsb] 市来の 駅前か? ’

(02:19.267 – 02:21.289)

(28) M12: *XXXsense:@tsje ... XXX*

XXX sensEE=@te ... XXX

183

PN 先生=@QUOT ... PN

‘<池田>先生って... <池田>’

(02:21.559 – 02:23.314)

(29) F13: *a: hai hai mo nakunararemasjita@ne:*

AA hai hai moo nakunar-rare-imas-ta=@ne *Leng* ||

184

?処理中 ^諾 ^諾 もう 無くなる-SPON-POL-PST:ATTR=@UPD:INFM *Leng* ||

‘ああ はい はい [其の先生-thsb] もう 亡くられましたね。’

(02:22.618 – 02:25.100)

- (30) M12: *dzjaddo@ga@na: arja aja gakko:n sense: doC@ijatta@ddzja: ||*
 =@*djar-ru=domo=ga=@na* *Leng are=wa* ...
 =@COP-ATTR=CCSV=CCSV=@UPD *Leng* DIST: 物=TOP ...
are=wa gakkOO=no sensEE
 DIST: 物=TOP 学校=GEN 先生-=@COP-PST:ATTR=@NML=@COP:CCL
doc=@djar-ta=@to=@dja Leng ||
Leng ||
 ‘だけどなあ 彼の人-wa:thsb... 彼の人-wa:thsb 学校の 先生同士だった
 んだ。’
 (02:25.162 – 02:32.585)

- (31) F13: *n: okusanga oijaddo ||*
UUN okusaN=ga or-jar-ru=@do ||
 ?処理中 奥さん=NOM 居る-SHON-ATTR=@INFM ||
 ‘う～ん 奥さん-ga:thsb いらっしゃるけど’
 (02:25.704 – 02:27.200)

- (32) F13: *onazji buraku@desu@jo ||*
UUN onazi buraku=@des-ru=@jo ||
 ?処理中 同じ 部落=@COP:POL-ATTR=@INFM ||
 ‘う～ん [其の奥さん-thsb] 同じ 部落 ですよ。’
 (02:27.322 – 02:29.582)

- (33) F13: *a: desjita: ??*
AA=@des-ta Leng ?
 ?処理中=@COP:POL-PST:ATTR *Leng ??*
 ‘ああ でした？’
 (02:32.666 – 02:33.921)

- (34) M12: *meganeo kake@tsjoijoratta@do@na: ||*
me kane=wo kake-tjor-iwor-ta=@do=@na Leng ||
 目 金属=ACC 掛ける-CONT-IPFV-PST:ATTR=@INFM=@UPD *Leng ||*
 ‘[其の先生-ag] 眼鏡-wo:th 掛けてたよな。’
 (02:34.104 – 02:35.889)

(35) F13: *hai hai hai*

hai hai hai

^諾 ^諾 ^諾

‘はい はい はい’

(02:35.104 – 02:36.395)

(36) F13: *o:kji@na Cito@jatta@jo@ne: ?? ano Citomo*

OOkI-=@na pito=@djar-ta=@jo=@ne Leng ?

大きい=@COP:ATTR 人=@COP-PST:ATTR=@INFM=@UPD:INFM Leng ??

((*ano pito=mo*)

((PROX:GEN 人=ADD))

‘大きな 人だったよね。 彼の 人-mo:thsb、’

(02:37.184 – 02:39.764)

(37) F13: *okusaN genkji sjitemasu@jo: ||*

okusaN genki se-te-imas-ru=@jo ||

奥さん 元気 為る-CONT-POL-ATTR=@INFM ||

‘奥さん-0:thsb 元気 してますよ。’

(02:43.249 – 02:44.885)

(38) M12: *a so:na ??*

a sOO=@na. ?

!気付き MED:ADVL=@Q ??

‘あ [其の奥さん-thsb] 其うか。’

(02:45.458 – 02:46.242)

(39) M12: *se:kantsju:de@na arega: su:ga?dno sense:@jatta@ka@na:*

sEEkaN tjUUGakkOO=de=@na (are=wa sUUgaku=no

生冠 中学校=INST=@UPD (,DIST: 物=TOP 数学=GEN

sensEE=@djar-ta=@ka=@na,)

先生=@COP-PST:ATTR=@DBT=@UPD,)

‘[其の先生-thsb] 生冠中でな、 彼の人-wa:thsb 数学の 先生だったかな、’

(02:50.374 – 02:55.000)

- (40) F13:
- a so:@na@n@da: || p\mu:N*

a sOO=@na=@no=@dja Leng || hUUN

195 !気付き MED:ADVL=@COP:ATTR=@NML=@COP:CCL Leng || ^感心

‘あ 其うなんだ。 ふ～ん’

(02:56.412 – 03:01.149)

- (41) M12:
- kametakenj~ sjo:gakko:kara ataidonto iddokji agak kijattaddzja ||*

kammuridake=no sjOO gakkOO=kara atasi-domo=to iti .do=ki

冠岳=GEN 小 学校=ABL 1st:POL-APL=CONJ 1=— 上がる-SIM

agar-te ki-jar-ta=@to=@dja ||

196 着る-SHON-PST:ATTR=@NML=@COP:CCL ||

‘[其の先生-agsb] 冠岳の 小学校から わたしたちと 一緒に 上がって
来られたんだ。’

(02:56.412 – 03:01.149)

- (42) F13:
- ossammo assarji sjita i: Cito@da@mon@ne ??*

okusaN=mo assari se-ta jo-i pito=@dja

奥さん=ADD あっさり 為る-PST:ATTR 良い-ATTR 人=@COP:CCL

mono=@ne ?

197 物/者=@UPD:INFM ??

‘(其の先生の) 奥さん-mo:thsb [性格-thsb] あっさりした 良い 人だ
もんね。’

(03:03.525 – 03:05.635)

- (43) M12:
- ai~ XXXsense:mo hara tsju:gakko:n tokji@zjatta@ke ojaddonno aija
sjitaiga jaCnokotte mjisjkattad@dzja*

ano XXX sensEE=mo hora (tjUU gakkOO=no

PROX:GEN PN 先生=ADD 注意喚起 (, 中 学校=GEN

toki=@djar-ta=@ka=@i,) ojadi-dono=no are=wa

198 時=@COP-PST:ATTR=@DBT=@INFM,) 親爺-BTF=GEN DIST: 物=TOP

sitai=ga jake- nokor-te miCkar-ta=@to=@dja ||

死体=NOM 焼ける 残る-SIM 見つかる-PST:ATTR=@NML=@COP:CCL ||

‘あの <XXX>先生も ほら、 中学校の 時だけ、 親爺さんの 彼れ
は 死体-ga:thsb *** 見つかったんだ。’

(03:11.034 – 03:17.708)

- (44) F13: *a umjide umjide*

a umi=de umi=de

!気付き--INST--INST

‘あつ 海で 海で’

(03:18.738 – 03:21.110)

- (45) M12: *dokka kokon sjitahenno hoo@jaddo ??*

doko=@ka koko=no sita=@peN=no puro

WH: 空間=@DBT PROX: 空間=GEN 下=@辺り=GEN 風呂

ja=@djar-ru=do ?

屋=@COP-ATTR=INFR ??

‘[其の現場-thsb] 何処か 此処の 下辺りの 方だろ?’

(03:18.738 – 03:21.110)

- (46) F13: *a: a so: || sora ikaj~jatta@ne:*

a Leng a sOO ... a sOO sore=wa

!気付き Leng !気付き MED:ADVL ... !気付き MED:ADVL MED: 物=TOP

ik-an-ta=@ne Leng ||

行く-NEG-PST:ATTR=@UPD:INFM Leng ||

‘あ あ 其う... あ 其う 其れ-wa:thsb 良くないね。’

(03:22.252 – 03:29.026)

- (47) M12: *nja ara ko... kammuridakeno se:kantsju:gakko:no sa?dno#ho:de@jo*

nnja are=wa ko... kammuridake=no sEEkaN tjUU

^否 DIST: 物=TOP- 冠岳=GEN 生冠 中 学校=GEN

gakkOO=no saki=no hoo=de=@jo

先=GEN--INST=@INFM

‘いや 彼れ-wa:thsb こ... 冠岳の 生冠中学校の 先の 方でよ’

(03:22.252 – 03:29.026)

- (48) F13: ***

hEE

!意外

‘,

(03:29.313 – 03:32.500)

- (49) M12: *mo na:go miCkarandzjatta@to:@tte ||*
moo naga- Leng-ku miCkar-an-ta=@to Leng=@te ||
 204 もう 長い Leng-ADVL 見つかる-NEG-PST:ATTR=@NML Leng=@QUOT ||
 ‘もう 長く 見付からなかったのって。’
 (03:29.313 – 03:32.500)

- (50) M12: *tsju:gakko:no tod@dzat@tsjaro:@kai@na: aja sjitaiga:@tsjute@jo:*
tjUU gakkOO=no
 中 学校=GEN
toki=@djar-ta=@djar-au=@ka=@i=@na ||
 時=@COP-PST:ATTR=@COP-IRR:ATTR=@DBT=@INFM=@UPD ||
 205 ((are=wa) sitai=ga=@tjuw-te=@jo Leng
 ((DIST: 物=TOP)) 死体=NOM=@QUOT: 言う-SIM=@INFM Leng
 ‘[彼の出来事-thsb] 中学校の 時だったろうかいな。 あれは、 「死体
 が」と 言ってよ’
 (03:32.609 – 03:36.609)

- (51) F13: *naNgji sjijatta@ne: ||*
nangi se-jar-ta=@ne ||
 206 難儀 為る-SHON-PST:ATTR=@UPD:INFM ||
 ‘[彼の先生-thsb] 難儀 されたね。’
 (03:36.749 – 03:38.039)

- (52) F13: *a kono#hen desuka ??*
a kono=@peN=@des-ru=@ka ?
 207 !気付き PROX:GEN=@辺り=@COP:POL-ATTR=@DBT ??
 ‘あ [其の現場-thsb] 此の 辺 ですか。’
 (03:38.562 – 03:43.556)

- (53) M12: *dokka wagae~ henno XXX sense:no a: kokon sjita****
doko=@ka waga ije=no=@peN=no XXX sensEE=no
 WH: 空間=@DBT 自分 (:GEN) 家=GEN=@辺り=GEN PN 先生=GEN
 AA koko=no sita ***
 208 ?処理中 PROX: 空間=GEN 下 ***
 ‘[其の現場-thsb] 何処か 此処ら辺の <XXX>先生の ああ 此処の
 下***’
 (03:38.562 – 03:42.068)

- (54) M12: *N p\uroja... p\uroja@jatta*** ||*
*uN puro ja ... puro ja=@djar-ta *** ||*
 ^諾 風呂 屋 ... 風呂 屋=@COP-PST:ATTR *** ||

‘うん 風呂屋... 風呂屋だった***。’

(03:42.095 – 03:44.892)

- (55) F13: *a: so:@na@n@da || a: p\uroja@ne || u:N p\u:N*
a Leng sOO=@na=@no=@dja || a Leng puro
 !気付き Leng MED:ADVL=@COP:ATTR=@NML=@COP:CCL || !気付き Leng 風呂
ja=@ne || UUN hUUN
 屋=@UPD:INFM || ?処理中 ^感心

‘ああ [其の出来事-thsb] 其うなんだ。 ああ [其処-thsb] 風呂屋ね
 う～ん ふ～ん’

(03:43.651 – 03:46.495)

- (56) F13: *m: sukunai@mon@ne: m:*
UUN suQna-i=moN=@ne || UUN
 ?処理中 少ない-ATTR=INFM=@UPD:INFM || ?処理中

‘う～ん [銭湯-thsb] 少ないもんね。 -う～ん’

(03:49.077 – 03:54.915)

- (57) M12: *mukasja p\urojaga o:kattade mma: mo ima: su?dnaka ||*
mukasi=wa puro ja=ga oo-kar-ta=de ima=wa
 昔=TOP 風呂 屋=NOM-VLZ-PST:ATTR=CSL 今=TOP もう
moo ima=wa suQna-ka ||
 今=TOP 少ない-ATTR ||

‘昔は 風呂屋-ga:thsb 多かったから 今は... もう 今は [其れ-thsb]
 少ない。’

(03:49.077 – 03:54.915)

- (58) M12: *mada naika sutto ??*
mada nani=@ka se-ru=@to ?
 未だ WH: 物=@DBT 為る-ATTR=@NML ??

‘[わたしたち-ag] まだ 何か-0:ev するの? ’

(03:56.297 – 03:57.557)

(59) M12: *a: so:@jatta****

*a Leng sOO=@djar-ta ****

!気付き *Leng MED:ADVL=@COP-PST:ATTR ****

‘ああ 其うだった***’

(03:59.011 – 04:00.318)

(60) M12: *nnja omaiga p\utai narabasetade *** mjiaio sasut@taro@kai@to ****

*nnja omaje=ga puta-ri narab-sase-ta=de *** miai=wo*

^否 1st:POL=NOM 2-人 並ぶ-CAUS-PST:ATTR=INST *** 見合い=ACC

*se-sase-ru=@to=@djar-au=@ka=@i=@to ****

為る-CAUS-ATTR=@NML=@COP-IRR:ATTR=@DBT=@INFM=@QUOT ***

‘いや 貴方 *i-ga:ag* ふたり-0:th 並ばせたから *** *i-ag* 見合い-
wo:ev させるんだらうかいと ***’

(04:01.304 – 04:06.500)

(61) F13: *atasji sjasjindemo totte kurut@to@ka@tsji omo@tsjotta ||*

atasi sjasiN=demo tor-te kure-ru=@to=@ka=@te

1st:POL 写真=ILL 取る-SIM 呉れる-ATTR=@NML=@DBT=@QUOT

omow-tjor-ta www ||

思う-CONT-PST:ATTR (笑) ||

‘わたし-0:exp [貴方-ag] 写真-demo:th 取って くれるのかって 思っ
てた。’

(04:04.751 – 04:07.407)

略号と記号

参考文献

早田 輝洋. 1999. 『音調のタイポロジー』大修館書店. .

五十嵐 陽介. 2018. 「九州語と琉球語からなる「南日本語派」は成立するか? : 共通改新としての九州・琉球同源語に焦点を置いた系統樹構築」、平成 30 年度琉球大学学長 PI プロジェクト「琉球諸語における『動的』言語系統樹システムの構築をめざして」一鹿児島大学公開共同シンポジウム「九州-沖縄におけるコトバとヒト・モノの移動」2018 年 11 月 3 日、於鹿児島大学.

宮岡 伯人. 2002. 『語とは何か エスキモー語から日本語をみる』三省堂. .